

令和元年度第1回 近江八幡市まち・ひと・しごと創生懇話会 議事録

(開催要領)

1 開催日時 令和元年7月23日(火) 13時00分から15時45分

2 場 所 近江八幡市役所4階 第3・4委員会室

3 出席委員等

<委員(敬称略・順不同)>

大嶋 英寿 (近江八幡金融協議会/滋賀銀行八幡支店 支店長)

城念 久子 (オレガノ副代表)

白須 正 (龍谷大学 政策学部 教授)

土井 勉 (一般社団法人グローバル交流推進機構 理事長)

江南 仁一郎 (近江八幡市 副市長)

(欠席)

秋村 田津夫 (近江八幡商工会議所 会頭)

<事業担当課・事務局>

春田 宏和 (文化観光課 副主幹)

岩越 和子 (子ども健康部 次長)

南 まゆみ (健康推進課 参事/0次予防センター長)

馬場 早苗 (健康推進課 副主幹)

太田 明文 (企画課 課長)

浅田 耕也 (企画課 課長補佐)

栄畑 朝夕美 (企画課 課長補佐)

森津 豊 (企画課 副主幹)

茶谷 健之 (企画課 主任主事)

橘 直樹 (企画課 主任主事)

<議事次第>

- 1 開会
- 2 事業説明、評価・検証
- 3 意見交換
- 4 閉会

【配付資料】

資料1 : 委員名簿

資料2 : 対象事業一覧

資料3 : 事業シート

資料4 : 平成30年度第2回懇話会報告書

資料5 : 次期「地方版総合戦略」の策定に向けて

<内容>

1. 開会

○事務局

- 新任委員紹介（近江八幡金融協議会／滋賀銀行八幡支店支店長 大嶋委員）

（座長挨拶）

○座長

本日は皆さまお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

当懇話会では3月20日に昨年度事業の進捗を確認し、評価・検証を行いました。

本日は、今年度事業がちょうど本格化するタイミングであることから、委員の皆さまにアドバイスをいただき、担当課にはより効果的に事業を進める手立てとしていただきます。

（懇話会開催の趣旨、進行方法説明）

（配布資料確認）

○事務局

※以降の議事は、設置要綱第5条第2項の規定により、座長により進行。

2. 事業説明、質疑・意見交換

(1) 東近江地域広域婚活事業

企画課	事業シートNo.1 に基づき説明
委員	<ul style="list-style-type: none">● 取組を重ねる毎に徐々に成果が上がってきた。● 事前講習会を開催するのであれば、本事業を通じて成婚された方に体験談を語ってもらうことを検討してみてはどうか。身近な方から近江八幡で結婚して良かったと語ってもらうことは大切であり、事務局にとっても今後の事業展開を考える上で良いフィードバックになる。● カップル成立しても成婚に至らなかった方や、結婚寸前までだった方などからも話を聞くことができれば、事業展開も変わってくるので、そのような振り返りについても検討されたい。
委員	<ul style="list-style-type: none">● 縁結びサポーターについて、最近ではプライバシーの問題が難しいところではあるが、サポーターから結婚がどのようなものか教えてもらえたり、誰かにひと押ししてもらうことで迷いを振り切り次に進めることもあるので大切な制度である。サポーター研修の実施に関して実績はどの程度か。

企画課	● 平日開催であることもあり、概ね 6～8 人程度の参加である。参加者の顔触れはほぼ変わらないが、毎回テーマを変えることを心掛けている。近時、新たに登録いただくサポーターも増えている。
委員	● 交際相手のいない男女の比率が増加傾向にある中、過去 3 年の取組で着実にカップル成立していることは評価できる。イベントの企画内容はどのようになっているか。
企画課	● 過去には陶芸体験なども企画したが、参加者アンケートからは 1 対 1 での会話時間を長く設けて欲しいという声が多く、その時間を多く設けるようにしている。また、最初に打ち解けてもらうための簡単なゲームを催している。過去の反省点を踏まえながら、年々内容の見直しを行っている。
座長	● 2 市 2 町での合同事業であるが、近江八幡市内からの参加者はどの程度か。
企画課	● 平成 30 年度については男性 10/20 名、女性 10/18 名、平成 29 年度については男女共に 11/15 名が当市からの参加である。平成 28 年度に福井県小浜市と連携して実施した際は、男性 9/17 名、女性 7/9 名が当市からの参加であった。
座長	● 世代としてはどの辺りの参加が多いのか。
企画課	● 20 代の参加は少なく、男女共に概ね 30～45 歳程度の方が多い。
委員	● 婚活事業を行政が行うことには様々な意見があるが、まずは結婚される方が増えないことには、出産や子育てといったその後の施策にも繋がらない。これまでの実績値が多いか少ないかはともかく、まちづくりの一環として取り組んでいることに評価いただけるところもあると考えており、今後も内容を充実させながら進めていきたい。
座長	● 成果をどう見るかというのは難しいが、アンケート等の内容も踏まえて進めてほしい。

(2) 未来づくりキャンパス

企画課	事業シートNo.2 に基づき説明
委員	<ul style="list-style-type: none">● 具体的な活動に結び付いたものが4件あるということであるが、特徴的な取組があれば教えてほしい。
企画課	<ul style="list-style-type: none">● ①八幡堀脇のポンプ小屋を改修した地域の居場所づくり、②農園シェアリング、③西の湖を子ども達の学びの場とする取組、④沖島振興を目的とした民泊の開業である。③については外部の助成金を獲得するなど資金調達についても取り組まれている。
委員	<ul style="list-style-type: none">● 費用対効果が現れており、非常に良い取組と評価できる。
企画課	<ul style="list-style-type: none">● 自走できる収益構造作りが大切であり、今後は修了生をサポートできる全庁横断的な体制づくりが必要と考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none">● 今年度のスケジュールについて、冬場は成果が出しにくいことも想定されるので繰り上げて実施することも検討されてはどうか。
企画課	<ul style="list-style-type: none">● 参考に使ってもらい、効果のあるタイミングを設定したい。
座長	<ul style="list-style-type: none">● 委託料が大半を占めるが、今年度の委託内容はどのようなものか。
企画課	<ul style="list-style-type: none">● 過去3ヵ年、運営支援委託により事業を進めてきた。今年度については国の補助が受けられないことから委託料を大幅に減額する必要がある。
座長	<ul style="list-style-type: none">● メンターについても委託業者が担っているのか。
企画課	<ul style="list-style-type: none">● 当初2年はメンターとして外部専門家を招聘していたが、昨年度については受託業者がメンターとして受講生に寄り添い、必要な専門的知見について外部の有識者を招聘することとした。
委員	
企画課	<ul style="list-style-type: none">● 委託事業者はコンサル会社などになるのか。

委員	● 過去3カ年はまちづくり会社まっせへの委託としていた。当初プロポーザル方式による入札でまっせに決定したものであるが、年数を重ねる毎にノウハウを蓄積しながら進めてもらっている。
企画課	● 国の補助を得られなかったとのことであるが、当初どの程度の金額規模をターゲットとしていたのか。また、補助を得るためのハードルは高かったと考えているか。
座長	● 補助上限800万円に対して350万円程度の事業内容として申請を行った。交付決定に当たってのハードルは非常に高いものであったと感じている。自治体による申請は少数であり、大学や教育関係事業者の応募が大半を占めた模様である。
企画課	● 今年度事業は中高生をターゲットとすることだが、起業を含めたソーシャルな意識を若い時期から育むという意図であるか。 ● 今年度は仕組づくりの準備段階になると想定しているが、最終的には総合戦略に掲げる生業づくりに繋がるような取組としていきたい。若い年代から近江八幡市のまちづくりに関わってもらい、成長して近江八幡市で活躍してくれることを狙いたい。

(3) 「戦国・安土」を活かした観光プロモーション

企画課	事業シートNo.3に基づき説明
委員	● 8年前に湖北地方を舞台としたNHK大河ドラマ「江」が放映された際も、多くの観光客が押し寄せ、現地にはスマートインターが設置されるなど非常に盛り上がったが、現在では寂しい状況に見受けられる。インバウンド誘致などにも絶好の機会であるので、是非とも一過性のものに終わることのないよう、持続性のある取組として進めてもらいたい。
委員	● 絶好の機会であり期待も高い。「江」放映の頃を思い起こせば、ある一定の団体だけが頑張っていたという印象である。今回は特定の市や町だけが頑張るのではなく、複数の市町が連携することはもちろん、地域も連携することができればより効果のあるものになる。人の心に根付く取り組みを意識してほしい。職員や関係者の心持ちで地域は変わる。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 一過性のものにならないために、地域外からの誘客をどう継続させるかが課題となるが、多くは次の大河ドラマが始まるとそちらの舞台に流れてしまう流動的な客層である。これを好機と捉え、地元住民や事業者の参加を促し、ドラマの世界観や地域のことをより深く知ってもらうことがまちの活気に繋がり、まちの資産にもなる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 大河ドラマ「麒麟がくる」については、県や商工関係団体と連携する体制を整えており、地域と一緒に一過性に終わらず、これから繋がる取り組みに仕立てたい。 ● ログマークの製作についてはどうなっているか。 ● 大河ドラマの舞台となる時代に主流であった湖上交通を用いた観光ルート開発が事業内容に含まれるが、これについてはどのように進めていくのか。
文化観光課	<ul style="list-style-type: none"> ● ログマークについては大河ドラマを全面的に打ち出すものではなく、ドラマ放映終了後も末永く安土エリアで活用できるものの製作を予定している。 ● 湖上交通については、推進協議会委員の立会いもいただき、長命寺港から長命寺川、西の湖を経て常の浜へ続く試作ルートを検討している。こちらも大河ドラマ放映期間だけでなく、その後も主流な観光ルートとなるよう整備していきたい。
座長	<ul style="list-style-type: none"> ● 委託料の内容について説明願う。
文化観光課	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域団体や商工会議所の参画を得て推進協議会を立ち上げ、事務局を観光物産協会としている。本事業は当該協議会へ委託しており、プロモーションなどを行っていただく。
座長	<ul style="list-style-type: none"> ● 一過性のものに終わらないこと、及び連携する市民や地域に対する関心を抱いてもらえるような内容として進めてもらいたい。

(4) インバウンド誘致事業

文化観光課	事業シートNo.4 に基づき説明
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光入込客数について、KPIの目標値が実績を下回っているがどのような理由か。
文化観光課	<ul style="list-style-type: none"> ● 目標値は計画時に設定したものであり、前倒しで既に達成しているということである。

- | | |
|-------|---|
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ● インバウンド対策は非常に大切な施策であるが、京都市を見ているとこれが本当に望んだ結果なのか考えさせられる。バランスの問題であり、現状が良い悪いということではないが、将来どんなまちでありたいのかを見据えて進めてもらいたい。 ● これまでは「来てもらうこと」が目的であったが、これからは「どう楽しんでもらうか」を考えなくてはならない。来てすぐに帰ってしまうのではなく、近江八幡のまちを深く感じて長く滞在してもらえるような素材を準備されたい。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ● インバウンド客の増加に伴い、年々リピーターも増えてきており、東京や大阪など都市部から地方の文化歴史に触れたいというニーズが高まっていると聞く。その点で近江八幡は非常にポテンシャルの高い地域であり、県をあげてリピーター客を呼び込む取組が必要である。我々も連携しながらと考えているので、そのように進めてもらいたい。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ● 対応が遅いように感じている。動画製作が10月からとなっているので、契約手続きまで早急に進めてもらいたい。 ● 欧州地域、特にフランス・イタリアをターゲットにするということだが、単に日本文化に関心が高いということだけで決めるのではなく、現在の需要、今後の需要予測や日本文化との関わりについても整理しながら進めてもらいたい。 |
| 座長 | <ul style="list-style-type: none"> ● 昨年度はDMOの設立が間に合わず事業実施に至らなかったが、今年度についてはDMO設立に関する手続きは整っており、委託先もその事業者を想定しているのか。 |
| 文化観光課 | <ul style="list-style-type: none"> ● 専門性を有する事業者として、DMO候補法人を想定している。 ● 昨年度計画していた事業についてもDMO法人設立後の実施を考えている。DMO候補法人である観光物産協会からは今年度中に設立したい旨聞き及んでおり、今年度についても観光動向調査などの事業委託を予定している。 |
| 座長 | <ul style="list-style-type: none"> ● 本事業も地方創生推進交付金の県連携パッケージ「戦国・琵琶湖」体験・体感ツーリズム深化プロジェクトの一環であるのか。 |
| 文化観光課 | <ul style="list-style-type: none"> ● 本事業も地方創生推進交付金の県連携パッケージ「戦国・琵琶湖」体験・体感ツーリズム深化プロジェクトの一環であるのか。 |

座長	● そのとおりである。近江八幡全体で見れば観光客数は増加しているが、安土エリアに限ると微減している状況にあり、安土エリアを盛り上げる方策として戦国のパッケージに含めている。
文化観光課	● そうすると、事業予定にある首都圏・海外へのプロモーションは市単独で行うのではなく、県と共同で行うということか。
委員	● 滋賀県が毎年フランスのパリで旅行博を開催されているので、後々はそちらに参加したいと考えている。
座長	● プロモーションに関する内容が中心になっているが、移動の問題を考えておくことも非常に大切である。基本的に公共交通機関を用いて移動される方が多いが、例えばグーグルマップの英語版や中国語版を見て移動される場合、日本語の乗換案内は役に立たない。その場合、グーグルのGTFS化により対応する、目的地までのダイヤや利用料金など公共交通の利用案内を駅前に充実させるなどの対策が必要である。 ● 次年度以降にはなるが、スマホ時代に対応した手法を検討されたい。 ● 早め早めの事業進捗を心掛けてもらいたい。 ● PRも大切であるが、観光に訪れた方の受け皿についても念頭に置いて、近江八幡、安土を楽しんでもらえる事業展開を検討されたい。

(5) 観光動向調査・データ分析

文化観光課	<u>事業シートNo.5</u> に基づき説明
委員	● アンケート調査なのであれば、調査票の配布と回収のタイミングをよく考えておかなければならない。それが適切でないと、抜け落ちの多い意義の薄いものになってしまう。 ● 満足度という指標は非常に主観的なものであり、サンプル対象が変わると年度毎での比較が意味を成さない。たとえ同じ人であっても、1年後には感じ方は変わるので次の展開に活かすには用いづらいデータである。 ● 何を気に入ったか、また行きたいと思えるものが何であったか、どこから来たのか、どの交通手段を用いたか、日帰りなのか宿泊なのか、といった項目は次のプロモーションを検討する際に重要なデータになり得る。

	<ul style="list-style-type: none"> ● 何を聞くのかよく整理していないと、答える人が途中で嫌気がさしてしまう。優先して聞く項目をよく検討されたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 調査及びデータ分析は観光物産協会に委託するのか。同協会は、業務遂行にあたって十分な体制が整っているのか。
文化観光課	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光物産協会への委託を考えているが、現状正規職員2名と体制的には厳しい状況にある。委託料の半額ほどを人件費に充ててもらい、臨時職員2名を雇用する予定であることに加え、市と観光協会の折半で専従の専門家を招聘することを協議している。この専門家の人選は非常に重要なものと捉えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 最適な人員配置により、その人がDMO法人に与える様々な波及効果を期待したい。 ● 限られた日数ではあるが、今年度中に方向性がまとまるよう頑張ってもらいたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光物産協会へ委託して事業実施することについて、どの段階で決定したのか。
文化観光課	<ul style="list-style-type: none"> ● 専従者1名を配置することに加え、調査・分析業務を実施することが、観光庁のDMO設立要件として規定されており、DMO設立に向けて必然的に事業実施の必要が生じる。
座長	<ul style="list-style-type: none"> ● 昨年度の未実施となった事業計画においては、インバウンドニーズの把握を中心に目的設定していたが、今年度は安土地域への誘客に目的をシフトしたのか。
文化観光課	<ul style="list-style-type: none"> ● 戦国をキーワードとした県との連携計画の一部として進めていることから、安土に関する記述が多くなっているが、旧近江八幡エリアとの連携を図ることで、市全域に関する事業として進めている。
座長	<ul style="list-style-type: none"> ● 近江八幡市よりも小規模であっても、独自の観光戦略を策定している自治体は存在するが、近江八幡市の観光施策にそのような考えはないか。
文化観光課	<ul style="list-style-type: none"> ● 本市は、通過型観光が非常に多く、いかに滞在時間を増やすのか、宿泊客を増やすのか、消費してもらうのかを考えることが重要と捉えている。単に観光入込客数を増やすのではな

座長

く、近江八幡エリア、安土エリアどちらにも来てもらい、滞在時間を延ばすことを目的とする戦略があればと感じている。

文化観光課

- 安土へ誘客するための公共交通の利便性はどうか。
- 路線バスが通っていないので、安土駅から徒歩もしくはタクシー、レンタサイクルの利用となる。
- 周遊バスや、西の湖を中心とした湖上交通の整備が進まないことには、周遊性は高まらないと感じている。

(6) 近江八幡0次予防シェアリングプラットフォーム形成事業

健康推進課

事業シートNo.6に基づき説明

委員

- 健康サポーター育成について、サポーターのケアがしっかりとできていれば、サポートする側、される側双方にとって居心地の良い場所になる。その他の取組も相まって、より人の集まる施設になるとよい。

委員

- もっと仲間作りができる場であると良い。高齢者への調査結果によれば、病気に並んで孤独が最も大きな恐怖の対象である。カフェにお客さんとして来てもらうだけではなく、仲間作りの場として広がりを持たせることができれば、行政の関わりも減り、更に地域の方々のものになっていくと思うが、何か今後のビジョンはあるか。

健康推進課

- 人と繋がることによりQRLが高まると考えており、0次予防センターだけに止まらず、市全域に取組を広げていくこととしている。その際には、居場所作りのサポーターとして各地域に入ってもらうことを想定している。
- カフェの運営については、今後民間のノウハウなども活用して場を有効活用していきたい。
- 食事をするだけの場だけでなく、交流や社会共生の場としても活用したい。例えば、子育て中で社会との接点を持ちづらい親を対象として、託児環境を用意することで働いてもらうといったことができないか検討している。

委員

健康推進課	● 参加者数は延べ人数とのことであるが、新たな顔ぶれは増えているのか。非常に良い取組であるので、多くの方に参加してもらえる事業となることを期待する。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康測定実績 432 人については実人数であり、一人ひとりと向き合って話をしている。 ● ランチについてはリピーターの数も多い。団体で来られた方が、次回別のメンバーで来られることもあり、口コミによる利用者数の増加がみられる。
健康推進課	● 面的な広がりが見られるとのことであるが、どのような年齢層の方が来られるのか。また、施設利用者の主な交通手段はどのようなになっているか。
委員	● 平日開館であることから、60 歳以上の方が中心である。交通手段については、あかこんバスの利用もあるが、主には自家用車であり約 9 割を占める。
健康推進課	● 認定を受けた健康サポーターが施設の中核の位置づけであるが、すでに地域に出での活動は動き出しているのか。
座長	<ul style="list-style-type: none"> ● 昨年度は地域の高齢者居場所づくりに参加してもらっている。例えば、ひまわり館で開催される脳活カフェであったり、コグニウォークイベントなどである。 ● ランチに比べてカフェの利用者数が少ないという実態もあるので、今後どのように広がりを持たせていくかが重要である。

(7) 共生型居場所づくり & コグニウォーク事業

健康推進課	事業シートNo.7 に基づき説明
委員	● 健康寿命延伸が目的とあるが、健康寿命の計測は非常に難しい。参加された方の健康寿命を測定できる体制はあるのか。
健康推進課	● ご指摘のとおり、健康寿命には客観的指標や主観的指標が存在しており、一律定まった定義が存在しない。市では客観的データの測定しかできないため、5年毎に見直しをしている健康プラン 21 の中で計測を行う予定としている。
委員	

健康推進課

- 人生 100 年時代を迎え、健康とどう向き合っていくかは非常に重要になってきており、自己管理能力を高めることは特に重要である。
- フレイル対策というのはどのようなことか。
- フレイルとは虚弱な状態の高齢者のことを意味し、例えば低栄養状態などが該当する。従前の生活習慣病予防では年齢にそぐわない指導もあったが、現在では高タンパクのバランスを考えた食事指導や、社会参加による外出機会を増やすことで身体機能の低下を防ぐなどの対策を行っている。

委員

- 0次予防同様に良い取組である。参加者の対象年齢などは設定があるのか。

健康推進課

- 特に定めてはいないが、平日開催でありやはり 60 歳以上の方が中心となる。

委員

- 協働するボランティア数や企業数を目標に掲げているが、企業などは平日の昼間開催となると、協働したくても業務の都合上参加できないと思われる。協働者数を増やすのであれば休日開催を検討されたい。企業側としては、その方がお手伝いしやすい。

委員

- 今年度からの取組であり、現状は高齢者の認知症予防という位置づけであるが、今後の展開として若い世代の健康づくりについても検討されたい。

座長

- 事業開始して3ヶ月が経ち、開催回数や参加人数はどの程度か。

健康推進課

- 昨年度末にプレ開催を行って以降、今年度に入ってから4回開催している。各回 6~20 名参加され、延べ人数で 70 名が参加している。

座長

- 非常に良い取組である。より多くの方が参加しやすいよう、周知などに工夫を重ねられたい。

(8) 安寧のまちづくり (CCRC) 推進事業

企画課	事業シートNo.8に基づき説明
座長	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業計画に掲載の西の湖周辺「静かな水辺で暮らす」の進捗状況はどうか。
企画課	<ul style="list-style-type: none"> ● パートナー事業者を選定し、地区計画の策定準備まで進んでいる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● CCRC計画であるので、基本的には元気な高齢者の居住エリアを作ることであると思うが、事業計画からは通常の住宅地との違いが分かりづらい。募集方法や、高齢者が集える菜園を作るなどして特徴付けを検討されたい。 ● 高齢者向けと言いつつも、高齢者のみが集まるのではなく、多世代が集うエリアとする方が地域への定着が期待できる。募集属性や、住み始めてからのコミュニティ作りの方法などが重要になると思うが見通しはどうか。モデルとして今後の参考になり得る。
企画課	<ul style="list-style-type: none"> ● 住宅地の中央にあらゆる世帯が行き交いできるコモンスペースを設けており、ここをコミュニティ作りの場とする計画となっている。また、元々お住まいの住民とのコミュニティを図るため、既存住宅地に近い区域に公園を設置する予定であり、新旧住民のコミュニケーションが図れればと考えている。 ● 本来のCCRCのコンセプトからは少し外れるが、本市におけるCCRCでは、あらゆる世代を対象としたものとして進めたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者を対象とすると医療施設などが必要となってくるが、この計画の中だけで全てを完結させることは難しい。CCRCにこだわり過ぎることなく、新たな人の流れを作り、人の流出を抑えるような狙いもあるということか。
企画課	<ul style="list-style-type: none"> ● そのとおりである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 既にプロモーション活動を行っているが、反応はいかがか。
企画課	<ul style="list-style-type: none"> ● 今年度についてはまだこれからとなるが、昨年度同様にモニターツアーの実施や移住イベントへの参加を予定している。

委員

- 昨年度実施したモニターツアーは大変好評であった。ロングステイ財団への委託により実施したものであるが、参加した会員が別の会員へ紹介してくれるなどの効果もあった。
- 移住イベントについても、来訪者アンケートからは近江八幡市に興味があるといった前向きな回答が多く得られており、地道なプロモーション活動が重要だと感じたところである。

委員

- あらゆる世代を対象とするとのことであるが、敷地内に菜園などがあると、高齢者だけでなく若い世代の反応も良いのではと考える。
- 高齢者ドライバーによる交通事故が度々ニュースになる中、駅から遠いなどの意見もあるだろうが、地域が連携することで住みよいエリアになればと期待する。

座長

- 小舟木エコ村の開発があった際、各区画で畑を作るというコンセプトがあり、リタイアされたシニア層が中心に集まると想定していたが、結果的には子育て世代の方が中心であった。今回の対象エリアについても、若い世代の転入意向はあると考えている。
- 西の湖周辺の計画が先行しているが、今後古民家を活用した拠点計画なども予定されており、近江八幡市の建物の良さについても、ここで活かしていくことが大切だと考えている。今後、事業者との協議が進んでいくが、力を入れて進めたい。

企画課

- 静かな水辺エリアについては 2020 年の供用開始予定ということであるが、計画で定める 5 つのエリア全体ではどのようなスケジュールを想定しているのか。
- また、地方創生推進交付金をはじめ、国の助成はどの程度見込まれているのか。
- 今年度予算については、先ほどのコグニウォークと同じく県が取りまとめる健康寿命延伸に係る地方創生推進交付金を活用して進めている。県が作成した地域再生計画に則って交付決定を受けており、今年度を含め令和 3 年まで 3 年間は国庫補助が活用できる見込みとしている。
- 計画全体のスケジュールについては、地元と協議を進めている段階にあり、現時点では定まっていない。

3. 全体意見交換

委員

- 着実に取組が進んでいるという印象である。
- 婚活事業にしても、そのままの事業名で聞くと事業実施の意図が読み取りづらいが、ソーシャルキャピタルとしての近江八幡市の人のネットワークを拡大する事業であると、視点を変えると見える事業の幅が変わってくる。
- 未来づくりキャンパスについては、高校生も多く参加する中で、実際に事業化されていることには驚かされる。たとえ国の助成が得られずとも、こういった事業はできる限り一生懸命取り組んでほしい。高校生は非常に大切な地域資源であるが、今の時代、東京や大阪といった都市部に出て帰ってこないことが多い。地域のことをよく知ってもらい、進学や就職で一旦出たとしてもいつか戻ってきたいという気持ちを子ども達にインプットできるのは、高校生までのこの時期しかない。しっかりと近江八幡の魅力や、君達が必要なんだというメッセージを植え付けることで、後々非常に大きな効果となり、まち・ひと・しごとの創出に繋がるので、是非その想いで取り組んでもらいたい。
- CCRCについても、熱心に取り組んでいることが感じられた。周りの注目も集める事業であるので、こんなまちをめざしているという分かりやすいメッセージとして発信されるのがよい。
- 今回、単一の事業としてだけでなく、それぞれの事業の関連性を把握しながら検証できたので分かりやすかったように思う。

委員

- 年数を重ねる毎に、様々な形で効果が現れてきており、大変良い方向に向かっていると感じている。
- 人材を切り口とした事業が多い。人は宝であり、その宝をどう活かすかという観点から人材育成には惜しまず取り組んでもらいたい。
- 未来づくりキャンパスを通じて、次世代の子ども達が地域を何とかしたいという問題意識を持てる素晴らしいまちをめざしてほしい。
- 健康で元気に過ごせるということは、みんなの最大の目標でもある。人口は多くとも寝たきりの高齢者が多いまちではなく、みんなが元気に活躍するまちをめざして取組を進められたい。

委員

- 健康に関する取組のところでも述べたが、新しく人が参加されるということが大切であり、地域住民への周知は非常に重要

委員

白須座長

である。周知することで、市民一人ひとりの意見も把握することができ、ひいては地域に対する愛着に繋がる。

- まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る事業であり、まちをどうするのか、人をどう育てるか、仕事をどう作っていくのか、そのバランスが大切だと考えている。個々の事業の取組もさることながら、全体としてめざすべきところを見定め、地域の意見調整を図りながら進めてまいりたい。
- 以前から言われているように、それぞれの事業単独ではなく、横の連携を図ることが重要である。
- 地元を離れたまま戻らない学生も多い中、中高生の頃に地域に対する関心・愛着を持ってもらうことが大切である。
- 観光関連事業などでも地域に対する市民のシビックプライドを高めることが重要である。関心を持たれた市民に対して、より関心を持ってもらえるよう、着実に努力を積み重ねられたい。

4. 時期総合戦略の策定について

○事務局

- **資料5**に基づき、国の方針概要、スケジュール等について説明。
- 例年は年2回開催としている本懇話会について、次期総合戦略策定にあたり今年度は追加で1回開催する可能性があることを確認。

5. 閉会